

上田市博物館協議会 会議概要

(様式第4号)

1 審議会名	令和6年度 第2回上田市博物館協議会
2 日時	令和7年3月17日 午後1時30分から午後3時まで
3 会場	信濃国分寺資料館講堂
4 出席者	児玉会長、小宮山会長代理、寺島委員、矢島委員、矢嶋委員、鎌田委員、小駒委員、米澤委員
5 市側出席者	坂部市立博物館長、小山信濃国分寺資料館長、石田庶務学芸係長、久保主任
6 公開・非公開	☒ 公開 ・ ☐ 一部公開 ・ ☐ 非公開
7 傍聴者	1人 記者 0人
8 会議概要作成年月日	令和7年3月21日

協 議 事 項 等

1 開 会 (坂部館長)

・令和5年4月から令和7年3月で、2年間の任期が満了となり、今回が最後の会議となる。また4月以降も引き続き皆様をお願いする予定ではあるが、2年間の任期の間、博物館に対し、ご指導賜りましたこと、心よりお礼を申し上げる。

令和7年度も限りある予算を有効に使い、魅力ある上田の歴史を広く発信していくことが必要であり、改めて職員一同肝に銘じ、来年度も取り組んでいく所存。

2 あいさつ (児玉会長)

・美術館の仏像展は6,000人を超える来館者があったと聞く。博物館のお雛様の展示も今までと違った展示となっており良かった。建物の老朽化の問題、収蔵庫が手狭となっており、別の場所で収蔵品を保管できないか考えていく必要がある。今年度の締めくくり、来年度に向けての会議となるようお願いしたい。

3 協議事項

(1) 令和6年度事業報告について (資料1)

・資料1-1に沿い、久保主任から市立博物館事業報告について概要を説明

・以降、協議

(委 員) 資料収集した竹内善吾詠草扁額について

(事務局) 東京都内在住の竹内善吾のご子孫の方から直接連絡があり、ぜひ寄贈したいというお話をいただいた。内容は竹内善吾が江戸遊学から帰郷した際、詠んだ和歌を記したもの。

(委 員) 他に何か資料はあったか。

(事務局) 今のところはない。

(委 員) 齋藤曾右衛門家文書はどのくらいの量を寄贈いただいたのか。またどこの地域のものか。

(事務局) 段ボール4箱ほどいただいた。文書は海野町の上野屋のもので、現在関西地域にお住いの親族の方からいただいたもの。

(委 員) 柱時計は動くのか。

(事務局) 明治初期頃、国鉄の駅に配備されていた官給備品であるが、現在もネジを回せば動く。

(会 長) 続いて、信濃国分寺資料館の事業報告について説明をお願いしたい。

・資料1-2に沿い、小山館長から信濃国分寺資料館事業報告について概要を説明

・以降、協議

(委 員) 子ども向け体験講座について参加者が親子ではなく子どものみにはできないのか。参加者を増やすために、学校にチラシを配り PR したらどうか。

(事務局) 1 回の参加者数はバックヤードの見学もあり対応できるのは 10 人が限度。日数を増やすのか検討する。

(2) 令和 7 年度事業計画について (資料 2)

・資料 2—1 に沿い、久保主任から市立博物館事業計画について概要を説明

(会 長) 合併してもう 20 年経つのか。夏季企画展で今の時点で考えている展示対象はどんなものがあるのか。丸子・真田・武石地域ではどんなものを考えているのか。

(事務局) 現時点ではまだ検討中であるが、丸子地域は鳥羽山洞窟の出土遺物や、新居神社の薙鎌、下丸子の涅槃図、依田社に関するものなどを考えている。真田地域は指定文化財の銅製鉦鼓、真田氏文書や真田氏給人知行地検地帳など。武石地域は、巴形銅器や正念寺十王像、やきもち石などを検討している。

(委 員) 博物館講座は、定員は何人か。

(事務局) 各 15 人ずつ。

(委 員) 各回ごとの申込にはできないか。

(事務局) 広報うえだ 4 月号に募集の記事を掲載予定。個別の講座を受講したいという希望があればそれぞれ対応できるようにする。講座の日がちが近くなったときに、参加希望があれば別途申し込み対応をさせていただくという形で検討している。

(会 長) 資料館の奈良時代を学ぶ会は 3 回でのべ 73 人の参加者。1 回あたり 20 人は参加している。博物館講座は 5 回で延べ 53 人の参加者数。講座の内容が理系が入ったり文系が入って、文系も時代が違ったりしている。できれば 1 講座ずつ個別の申し込み方法の方が大勢受講してくれると思うが見解はどうか。5 回で延べ 100 人の定員に対し、50% という原因はそこにあるのではないか。5 回全て出席しなければならないとなると、私も躊躇する。

(事務局) 広報原稿の訂正を行う。事務局内で募集方法について検討を行った。定員の確保について、1 講座ごとに募集を行った場合に、参加者が少なかった場合のことを踏まえると、今年度と同様、初めに 20 人募集した方が良いという結論になった。広報の訂正が間に合うようなので、委員の皆さんのご意見を聞いて、募集方法について変更することとしたい。

(委 員) 市民サービスの観点からも、各回ごとの申込方法でお願いしたい。第 1 回目の講師の両角氏は、丸子公民館での講座を拝見したが 20 名以上の方が受講されていた。チラシを配布するなど工夫をすれば 100 人を超える受講者が集まるのではないか。

(会 長) 新収蔵資料展について、前回から 3 年経過しているのでだいぶ資料は集まっているのか。

(事務局) 寄贈と購入とで集まっている。

(委 員) 資料に「今年度修復 (研磨) が完了した当館増の太刀 (青江) とあるがどれか。

(事務局) 今年度ではなく令和 7 年度前半に資料の訂正をお願いしたい。刀剣の研磨はこれから行う予定。

(委 員) 事業報告の話に戻るが、画像の提供や掲載の申請件数、資料閲覧件数、資料貸出の件数等も報告したらどうか。博物館機能として資料をきちんと収集・保全をしていくということから考え、画像申請の件数等を公表して貢献していることをアピールした方が良い。

(委 員) 資料館の子ども向け体験教室について、参加者が少なく残念。夏休み等に子どもを集める

同じようなイベントがたくさんある。子どもたちはたくさんの選択肢があり、学校の先生方も忙しいので子どもたちへ案内しきれないのではないかな。

(事務局) 夏休み中の開催ということで、いろいろな行事と重なる。以前参加しているお子さんがいたら、違うメニューを考える等工夫している。夏場の開催のため熱中症対策等、保護者の方も大変であるが、親御さんも興味を持って参加される方もいる。多くの方の参加いただけるよう考え、継続していきたい。募集は広報うえだに掲載するくらい。バックヤードの見学は、とても喜んでくれるが、しっかりと見ていないといけなないので、職員3人で対応できる10人くらいがちょうど良いかと思う。

(委員) いろいろ工夫してほしい。できるだけ大勢の子ども達や保護者に体験していただきたい。やっていることをPRする意味でも学校へ通知を出すことはできるのではないかな。

(事務局) 夏休み企画として学区外に子どもだけで行けないという事もありますから、親子一緒に講座であるが、最近はおじいちゃんおばあちゃんと参加するというケースもある。

(委員) 保護者には子供と一緒に同じ体験をして感動してもらいたいと思う。いろいろと難しい場面があるが、メニューを工夫して一緒に体験できる講座を検討してほしい。

・資料2-2に沿い、小山館長から信濃国分寺資料館事業計画について概要を説明

(会長) 何か質問はあるか。特別展の出品点数が多い。

(事務局) この前の仏像展で展示した十二神将立像、山家神社の御正体が4から5つ、板碑もたくさん展示する。また市指定の狛犬も展示する。

(委員) 展示のキャプションは専門用語が多く難しい。市民にもわかりやすいような説明にしてもらいたい。市民目線のキャプションをお願いしたい。

(事務局) ご意見いただいた内容を考慮し検討したい。

(3) その他

(会長) その他に何かあるか。

(委員) 原町問屋日記、柳澤家の本陣日記等は市史編さん室で写真を撮ってあるはず。写真があればコピーができる。博物館で市史編さん室から持ってこれないか。柳沢家文書、滝沢家文書の現物は博物館にあり、その現物の使用頻度が高い。閲覧対応は写真でできないのか。

(事務局) 生涯学習・文化財課で管理しているので確認する。

(委員) 柳沢家の希望でもある。上野たかもとの現年表も原本ではなく画像で見せることはできないか。問屋日記等製本をするためにお金がかかるのであれば予算化することも検討してほしい。

(会長) 他にないか。歴史の研究団体が高齢化している。東信史学会も上小郷土研究会も高齢化が進んでいる。すでに解散、廃止になった団体もある。若い人が入ってきて更新されて行かない状況である。

(委員) 松代文化財ボランティアの会という団体がある。真田宝物館の館内の案内や湯茶の接待、ふすまの下張り文書の整理、子ども向けのワークショップなどの活動をしている。2年ほど前から、土日中心ではあるが高校生が参加してくれるようになった。

(会長) 県立歴史館も高校生にアプローチをしている。博物館、上田市も若い人が入ってきてくれるよう考えていかなければ高齢化が進んでしまう。真田町で大石学氏の講演会があった。真田はよく人が集まるが高齢者が多かった。いろいろな活動を継承していかなければならない。切り口を模索しながら次の世代に何かアプローチをしていかなければいけない。

(会長) 全体を通して何か質問はあるか。

(委員) 1月に送っていただいた第3次上田市総合計画の中でも老朽化した建物の整備と職員体制の検討という文言があり、それについてお伺いしたい。

(事務局) 博物館は昭和 39 年建設で今年 60 年。資料館も 55 年になる。非常に老朽化が進んでいる。市の施設では他に図書館もだいぶ古い建物で、それぞれが施設の建て替えを考えていかなければいけない時期になっている。今博物館がある場所は、上田城の城跡公園内という事もあり、その場所に新しく建て替えるということは、文化庁が許可を出さないのではちょっと不可能であるという見方をしている。かといって博物館どこに建設するのかという話も全く今のところは具体的にはなっていない。市街地に出すということになるとその土地を探すことになる。こういった社会教育施設を建設する際に、補助金的なものがない。国交省の補助金を使えるかもしれないが、その場合には、例えば博物館と福祉施設を合体させるかとか、何かと何かの施設を合築したものでなければ、対象にならないといった制約がある。現在、都市計画課など庁内の関係課等で検討を始めた段階であり、具体的なビジョンが言えない。ただ市としても古い施設をかなり抱えており、一度に建て替えというのはとても財政的にも難しいため、当然優先順位がついてくる。博物館としても、収蔵庫はすでに飽和状態がずっと続いており、要望はしているがまだ具体的に進んでる状況ではない。

(委員) その計画(第3次総合計画)の中に、きちんと言葉として整備を進めるということが入ってるのが素晴らしいと思う。今お話いただいた通り収蔵庫が常に飽和状態という建物に本当に貴重な資料がたくさんあるため、大変もったいないと思うし、職員の方も皆それぞれ知識と技術を持っている方がたくさんいるので、是非改修と人の配置を進めてほしい。

(委員) 図書館の利用者団体協議会に出席したが、博物館同様あまり話は進んでいないようだ。署名活動が始まる機運があるようで、やはり市民の要望があれば違う違うってくるかもしれない。

(会長) 笠原工業の常田館製糸場はどのような状況か。

(委員) 常田館は冬期休館日も設け3月22日から11月30日まで、土日は守衛を置き、期間中は無休で開館している。年間3,000人弱ぐらいの来館者がある。小学生の団体見学なんかでは、1人1人に体験をしてもらっている。3,000人の来館者のうち、団体客が1,000人くらいとなっている。

(会長) 昨年の雪で、常田館の底や壁が崩れて修復していかなければいけない。せつかくの施設があるので博物館と連携できるようなものがあっても良いのではないかな。他にも全部含めて何かご意見はあるか。

(委員) 今回、貴重な資料がたくさんあることを初めて知った。博物館で広報うえだ等で資料の紹介記事を書いて PR すれば、市民にも貴重な資料の存在がわかってよいのではないかな。

(会長) 丸子郷土博物館の来館者数が2月末現在で昨年より増えているがどうしてか。

(事務局) 丸子郷土博物館では、常設展のみで企画展の開催は難しい。なぜ人数が増えたのか不明。

(3) その他(坂部館長)

本日の内示で博物館職員の異動の内示あり。

4 閉 会(児玉会長)

・閉会のことば